

動物のお医者さん リレートーク

皆さんにお馴染み! 芦屋市内で活躍されている獣医さんに毎回交代で執筆して頂くコーナーを新しく設けました。病気のこと、しつけのこと、困った患者さんのこと、日々感じておられること、飼い主さんをお願いしたいことなどなんでもOK! 自由に語って頂こうと思っています。

シリーズ第四弾

健康に暮らすためのチェック項目

スター動物病院 西澤貴仁

春日町の鳴尾御影線沿いで開業してから、はや5年の歳月が経ちました。毎日気力・体力を充実させ、飼い主さんと動物のことを考えて頑張っています。うちの病院ではよく言うことですが、年に1~2回の来院だけではお話しきれていないことを簡単ではありますが、最近の傾向をふまえながら簡条書きにしてみました。

◎年に一度の犬の狂犬病予防注射と混合ワクチン接種、フィラリア予防薬を忘れずに

▶感染したら助からないことも!

◎六甲山など山に行くときはダニ予防を

▶貧血を起こす寄生虫をもらう危険があり、完全に駆虫はできません

◎健康診断をしましょう(とくに幼年期や7歳以上)

▶子犬の病気は意外に多いです(皮膚病、心臓病、寄生虫など)

◎ワクチン接種は、午前中か午後の早い時間に

▶ワクチン後のアレルギーは、遅れて出ることがあります

◎避妊・去勢手術をするかどうかと時期について

▶若いうちに手術をした方が多い場合があります

◎避妊手術をしていない犬・猫の乳腺は毎月触ってチェック

▶しこりがあれば乳腺腫瘍の可能性があります(とくに7歳以上)

◎心臓に雑音がある子は、検査をしたうえで早めにお薬を

▶悪化を抑えられることがあります

(※あくまでうちの病院としての注意点ではありますので、気になることがあれば、かかりつけの先生にご相談ください。)



◎常に飲水量が多い(犬5kgで500ml/日以上、猫5kgで250ml/日以上)場合は要注意

▶腎臓病、糖尿病、内分泌疾患の可能性あり

◎家の外に出て行く猫、けんかをしがちな猫には

▶ワクチン接種による猫白血病、猫エイズの感染予防が必要

◎口をさわると痛み慢性的によだれの多い猫は

▶内服・外用では治らない口内炎で、抜歯などが必要なことがあります

◎柴犬・フレンチブル・ダックスの1~2歳までに出る皮膚炎は

▶食物アレルギー、犬アトピー性皮膚炎の可能性があります

◎犬・猫の食べてはいけないものにも要注意

▶キシリトールは低血糖、ブドウは腎不全を起こすことがあります

シリーズ第五弾

私の愛猫“ならちゃん”

マール動物診療室 二宮 光

最近の患者さんたちを見ていると、みなさん、動物たちを本当にわが子のように思っているように感じます。獣医師である私にとっても、自分の飼っている動物たちは、かけがえのない家族です。そんな私にも、大切なわが子との悲しい別れを予感する出来事がありました。

先日、一番大切な17歳半のネコ、ならちゃんのお腹に乳癌があ



るのが見つかりました。ならちゃんは私にとって特別なネコで、よきパートナーという存在です。乳癌が見つかったときは、ならちゃんもいつかは本当に死んでしまうんだという現実を突き付けられ、本当にショックでした。そして、ならちゃんがいなくなったら、私はどうなってしまうんだろうかとすごく不安になりました。

そこで、いなくなった後の対処法をいろいろと調べてみましたが、良い予防方法は見つかりません。どうやら、大事な子とのお別れのつらさを避けることはできないようです。今できることは、当たり前前のことですが、逝ってしまうその時がくるまで、精一杯の愛情を注いで、かわいがってあげることしかなさそうです。いなくなった後は、生前どんなに尽くしてかわいがっていたとしても、絶対に何らかの後悔は残ります。でも、あれだけかわいがってあげたから、これだけのことをしたのだから、という思いがほんの少しでも心のどこかにあれば、そのときの自分への慰めになるのではないのでしょうか。

私はならちゃんにとつての最善は何かを考えました。ネコの乳癌は悪性度が高く、本来であれば、乳腺の全摘や抗がん剤の投与など、やるべき治療があります。しかし、ならちゃんは、もう17歳半で